

# 令和8年産みえの麦生産改善技術情報 第2報

**赤かび病の防除時期が近づいています！適期を逃さず複数回防除を！**  
**～防除適期は、昨年に比べ早くなることが予想されます～**

## 👉 麦類赤かび病について

- ・発生すると、粒が細くなり減収につながります。
- ・カビ毒（デオキシニバレノール：DON）が生産され、人体に悪影響をおよぼすため、食品衛生法により基準値（1.0mg/kg）を超えた麦は食用として流通することができません。
- ・開花始期から10日間程度の間が最も感染しやすく、この期間に降雨が続き、気温が高くなると発生が多くなります。
- ・2回防除を基本とし、適期防除を徹底しましょう。

## 👉 感染しやすい気象条件になる恐れあり

- ・東海地方の1か月予報(3/28~4/27)によると、平均気温は高い確率80%、降水量は多い確率40%、と、赤かび病の感染リスクが高くなる恐れがあります。

## 👉 防除適期 ~降雨が続く場合でも、短い晴れ間に散布を!~

- ・【1回目：開花始め<sup>※1</sup>～開花期<sup>※2</sup>】
- ・【2回目：1回目防除から7～10日後】です。

※1「開花始め」 = 「薬」が数個出始めた穂が、圃場全穂の10%に達した時期。

※2「開花期」 = 「薬」が数個出始めた穂が、圃場全体の40~50%に達した時期。

## 予測される開花期（11/10播種）

品種	播種日：11/10	
	予測される開花期	平年との差
ニシノカオリ（伊勢平野）	4/10	7.9日早い
あやひかり（伊勢平野）	4/10	7.1日早い
さとのそら（伊勢平野）	4/14	3.2日早い
さとのそら（伊賀）	4/22	3.1日早い

※メッシュ農業気象データを用いた生育予測システム(三重県農業研究所)による予測値です。

※3/30時点の予測値であり、今後の気象により変動する可能性があります。

※メッシュ農業気象データは、伊賀：森寺、伊勢平野：松阪市嬉野地点のもの

※あくまで予測値です。必ず圃場で生育状況を確認してください。



- ・昨年、平年と比べ、開花期は早くなることが予想されています。
- ・11月上旬播種の圃場では、4月上旬が開花となる予測です。
- ・開花前や、開花後の経過日数が長くなってからの防除では効果が劣ります(別添チラシも参照)。
- ・必ず圃場で生育状況を確認し  
適期に防除しましょう。

## 👉 薬剤はローテーション散布しましょう！

- ・ 2回目以降の防除は薬剤感受性の低下を防ぐため、1回目と異なる系統（FRACコード※）の薬剤をローテーション散布してください。

※ FRACコード：殺菌剤の作用機構別に分類したコード

(例) 1回目：トップジン M ソル (FRAC 1)  
2回目：ワークアップフロアブル(FRAC 3)

FRAC コード	主要農薬名 (剤型は省略)
1	トップジンM
3	ワークアップ シルバキュア チルト
7	ミラビス

## 👉 排水対策も忘れずに！

- ・ 出穂期から登熟期の湿害は、「赤かび病発生の助長」「登熟不良」につながります。
- ・ 令和6年産は、登熟期の多雨により湿害の発生が多く認められました。
- ・ 降雨に備え、ほ場内の明渠、排水路の連結などを徹底しましょう。



周囲溝は確実に排水溝  
につなげましょう！



明渠内をチェックし、土塊等を除去しましょう。  
特に、本作では12月以降の降雨量が極端に少ないため、土壌が乾燥し崩れやすくなっているため注意が必要です。

令和 8年 3月31日

三重県産麦生産改善技術対策会議